



災害時の安全対策委員会 活動報告



松原市セーフコミュニティ 災害時の安全対策委員会

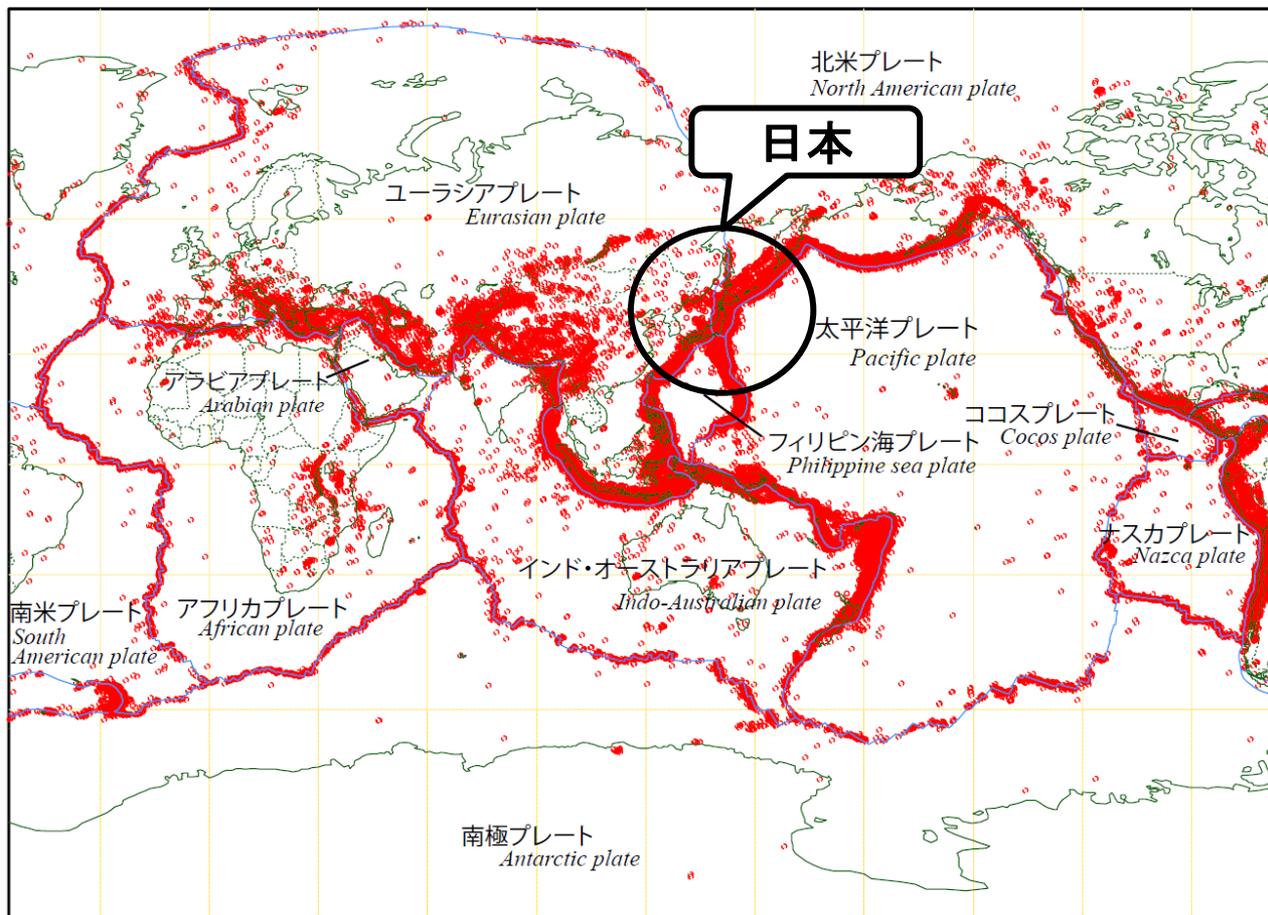
報告者 : 災害時の安全対策委員会 委員長 北田 和平
所 属 : 松原市自主防災組織連絡協議会 会長

日本は地震大国

地震の発生原因であるプレート境界線上に位置する日本

世界の主なプレートと地震の分布図

出典: 気象庁

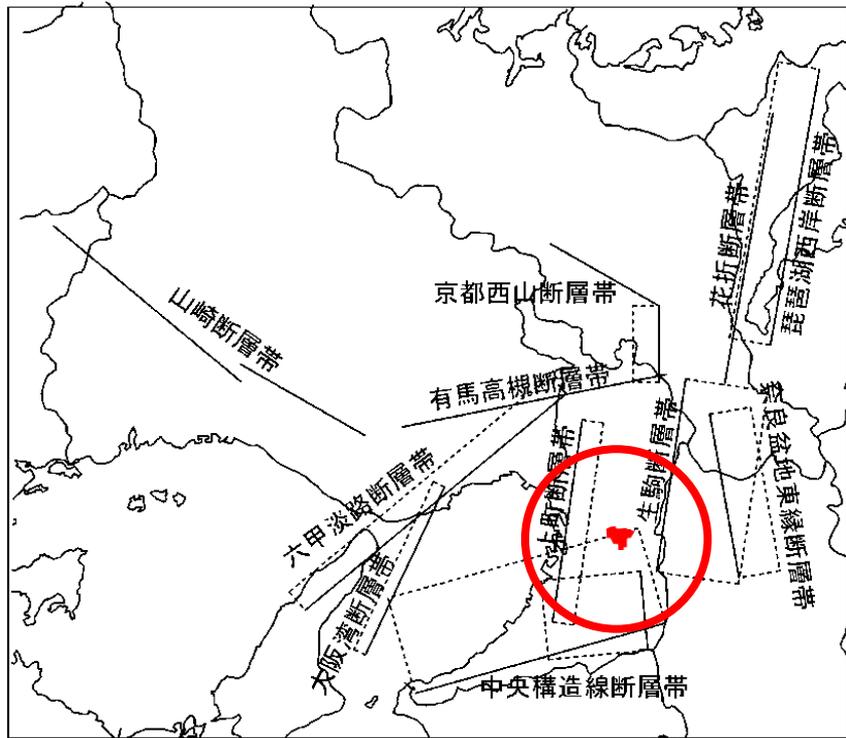




地震からは逃れられない地勢的特徴



出典: 気象庁



出典: 大阪府

・プレートの境界線上に位置する国土

・多くの活断層帯に囲まれ位置する松原市



大きな被害が想定されるのは・・・

上町断層帯地震

(出典 2007年 大阪府)

活動規模 : マグニチュード7.5
震度 : 6弱～6強

【 松原市における想定被害 】

死者数 : 150人
負傷者数 : 1,400人
避難所生活者 : 17,700人
罹災者数 : 61,000人

南海トラフ巨大地震

(出典 2012年 中央防災会議)

活動規模 : マグニチュード9.0
震度 : 6弱

【 大阪府全体における想定被害 】

死者数 : 9,800人
負傷者数 : 65,000人
避難所生活者 : 現在策定中
罹災者数 : 現在策定中



明日、起こるかもしれない大地震

【30年以内に発生する確率】

阪神淡路大震災

(1995年1月17日発生 マグニチュード7.3)

1%未満から8%で発生



上町断層帯地震

(出典 2007年 大阪府)

2%~3%

『やや高い』グループに属する

南海トラフ巨大地震

(出典 2013年 中央防災会議)

60%~70%

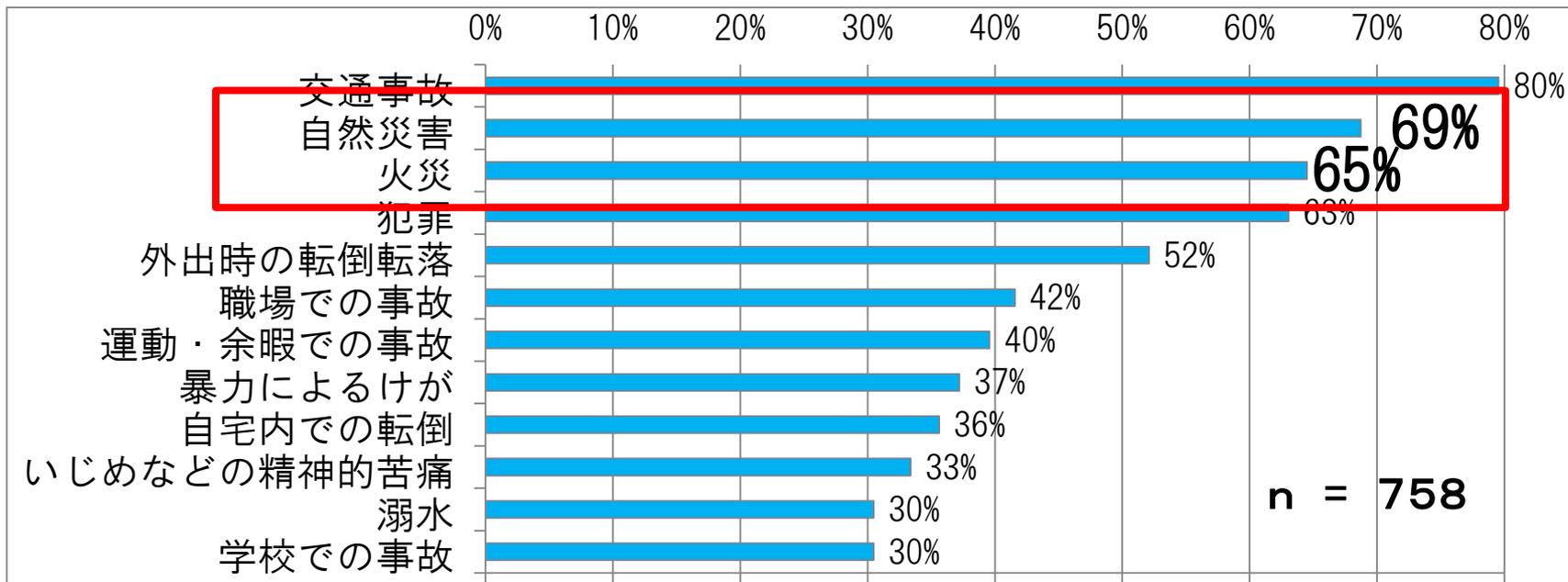
『高い』グループに属する



自然災害・火災に取り組むこととなった背景

事故・犯罪・災害への不安感

出典：2011年けが及び安心安全に関する実態調査アンケート



◎いつ起きてもおかしくない大地震

◎自然災害・火災への不安感

災害への準備が不可欠！！

災害時の安全対策委員会の設置を決定



災害時の安全対策委員会の構成

松原市
赤十字奉仕団
(2)

松原市自主防災
組織連絡協議会
(2)

自治会連合会
(6)

松原市老人
クラブ連合会
(1)

構成員：28名

松原市安全な
まちづくり対策
協議会 (1)

松原市障害者
施策推進協議会
(1)

災害時の安全
対策委員会

松原市婦人防火
クラブ連合会
(2)

松原市民生委員
児童委員協議会
(1)

大阪府富田林
土木事務所
(1)

松原危機管理
協議会 (1)

松原市
消防団
(1)

松原市
(8)

松原市
消防本部
(1)



災害時の安全対策委員会の位置付け

日頃からの
備え

自助

隣近所の
助け合い

共助

公助

災害
発生

時間の経過とともに、被害は拡大していく・・・

少しでも被害を抑えるために、
自分で、地域で何ができるのか、
何を準備すべきなのかを考える場



災害時の安全対策委員会の取組の経過

開催日		回	主な会議内容
2011年	12月13日	第1回	セーフコミュニティの概要について勉強会
2012年	1月20日	第2回	火災・自然災害のデータに基づいた課題・成果の検討
	3月8日	第3回	課題解決のための取組について検討
	5月16日	第4回	取組にかかる目標・指標・測定方法について検討
	7月4日	第5回	取組の内容・役割分担について検討 事前審査での中間報告資料について検討
	9月28日	第6回	対策委員会間の情報共有のため合同会議開催
	10月28日	第7回	セーフコミュニティ事前審査にて中間報告
	12月11日	第8回	事前審査の講評を踏まえた改善について検討
	2013年	2月8日	第9回
3月15日		第10回	これまでのまとめと今後の取組の方向性を確認
5月20日		第11回	本審査での報告資料について検討
7月24日		第12回	対策委員会間の情報共有のため合同会議開催

取組実施

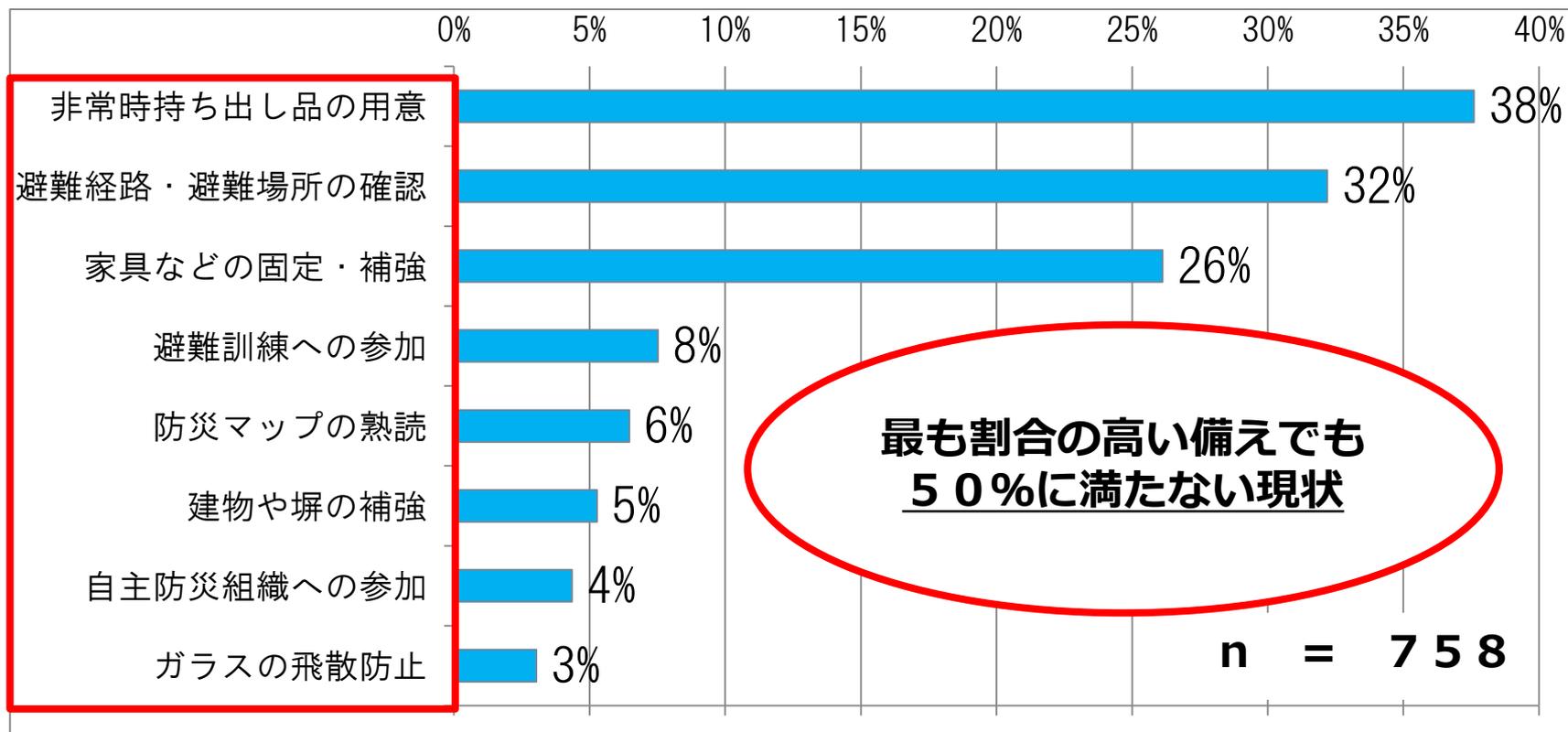




データ分析による課題抽出 ①

地震災害への自己対策実施割合

出典：2011年けが及び安心安全に関する実態調査アンケート



災害への不安感が高いが、自己対策は不十分



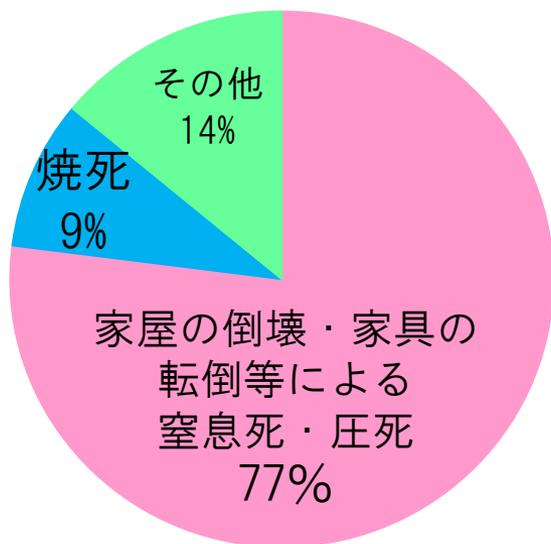
データ分析による課題抽出 ②

阪神淡路大震災による教訓

出典：厚生労働省

死者数：6,434人 負傷者数：43,792人

死亡原因



- ・死因は窒息死・圧死・焼死が大半を占める。
- ・窒息死と圧死の原因のほとんどが家屋の倒壊と家具の転倒によるもの。
- ・負傷者については、詳細なデータは少ないが、兵庫県尼崎市では負傷者の約60%が家具等の転倒によるもの。
- ・地震後発生した火災は復電後の電気火災によるもの。また震度6以上の地域で多発。

まずは、家具転倒防止と火災への対応が重要



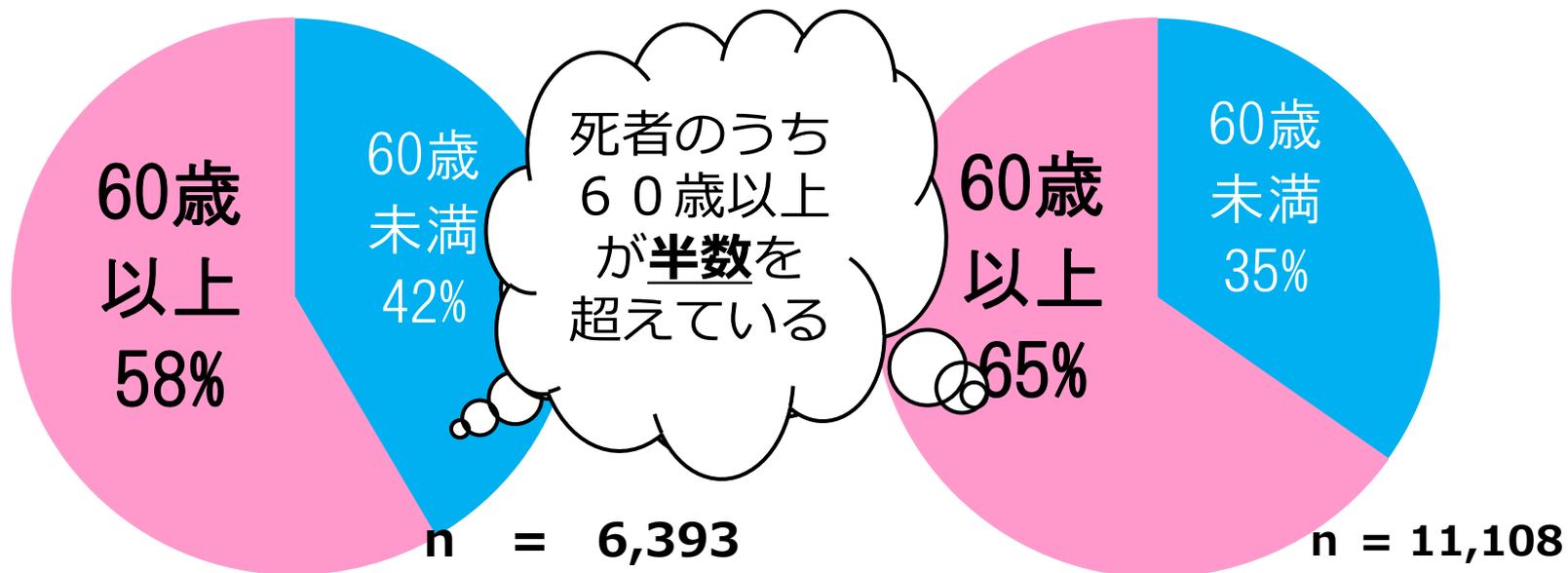
データ分析による課題抽出 ③

大地震における死者数の年齢別構成比

出典：防災白書

阪神淡路大震災（1995年）

東日本大震災（2011年）



大地震の死者は高齢である者の割合が大きい

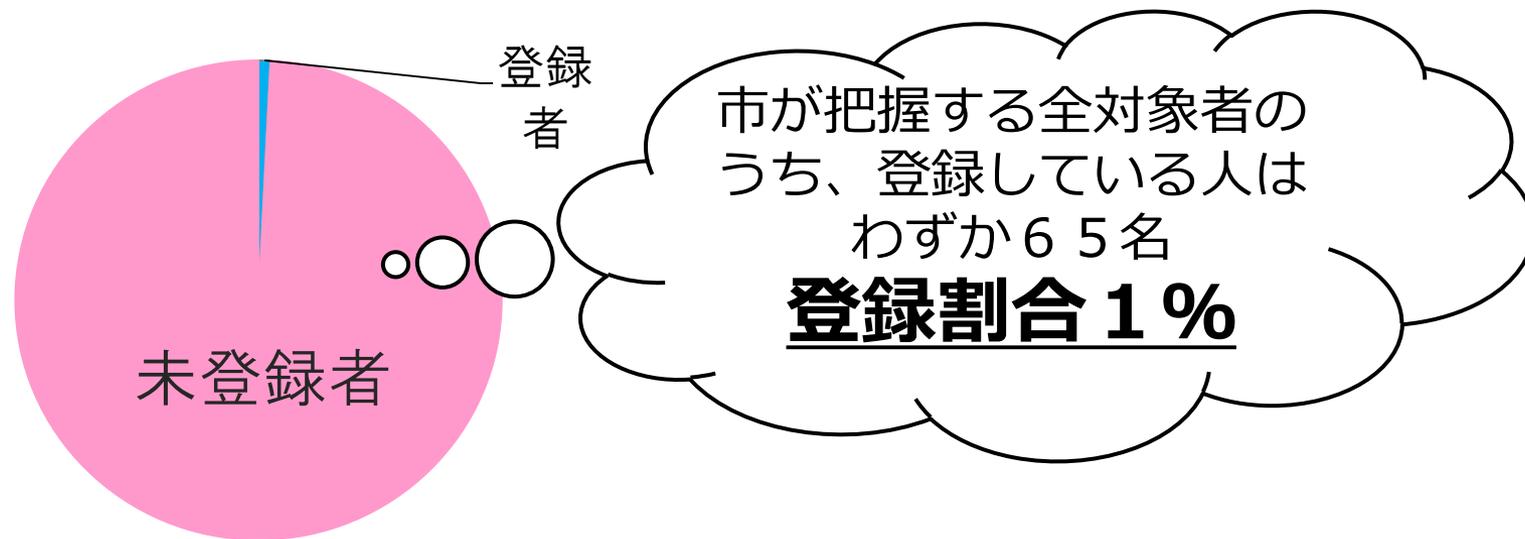


データ分析による課題抽出 ④

高齢者等の状況	要介護等認定者 (要介護3~5)	身体障害者	精神・療育手帳 保持者	合計 (実人数)
全対象者	1,718人	4,890人	1,663人	7,393人

災害時要支援者安否確認登録者数 (2013年3月1日現在)

出典：松原市

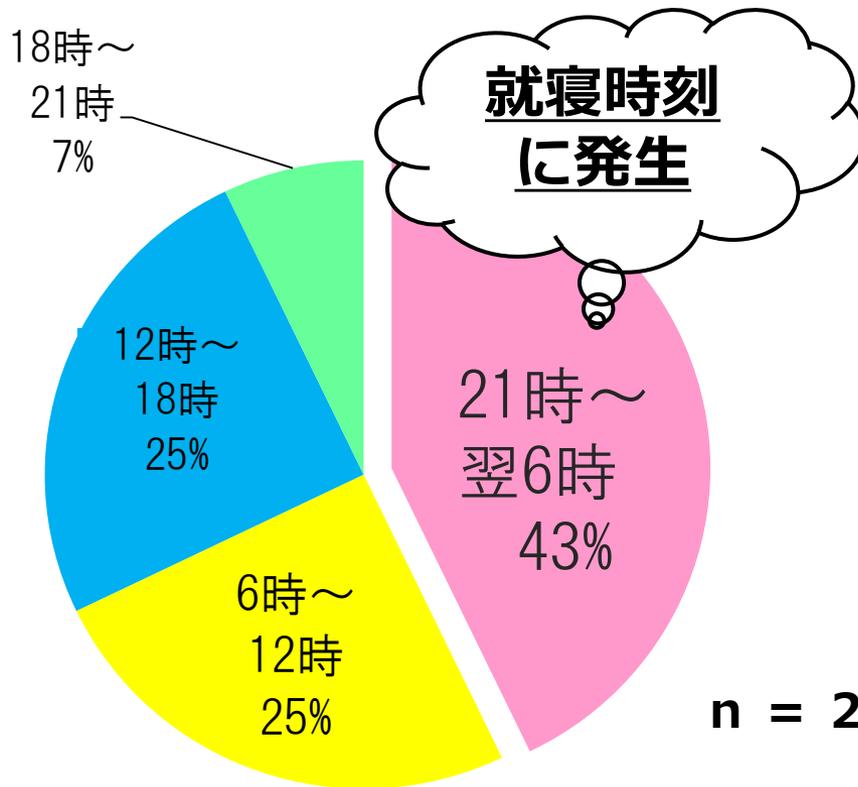


高齢者等災害弱者の逃げ遅れによる被害が想定される



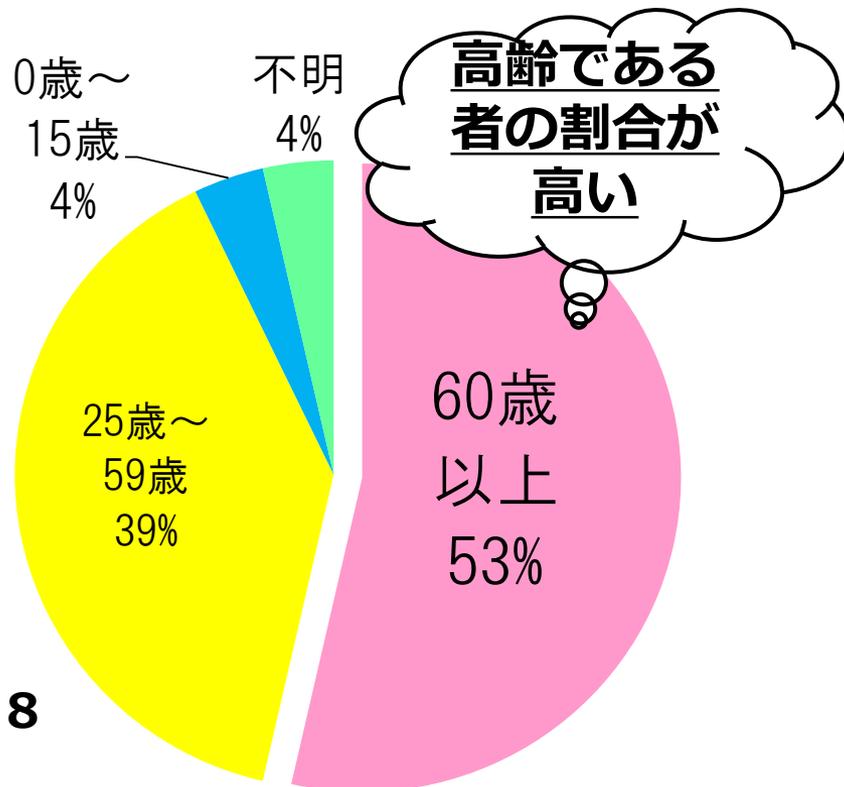
データ分析による課題抽出 ⑤

死者を伴う平時の火災発生時刻



平時の火災による死者の年齢別構成比

ともに出典：松原市消防年報（1998-2011年累計）



n = 28

平時の火災でも高齢者である者の逃げ遅れによる被害が多い



課題設定と取組

予防対象	課題	取組
地震災害における死傷	自然災害への不安感は大きい が、自己対策は不十分	①地域の防災訓練
	家具転倒等による多数の死傷者が 想定される	②家具転倒防止等対策の普及
高齢者等災害弱者の逃げ遅れによる死傷	大規模災害発生時、高齢者等災害弱者は逃げ遅れることにより死傷する可能性が高い	③地域の見守り活動
	平時の火災による逃げ遅れでも高齢である者の割合が高い	④住宅用火災警報器の普及・維持管理の啓発



取組① 地域の防災訓練

目的	災害発生時の初動対応を習得 地域コミュニティ内での連携強化
実施内容	消火器訓練 ポンプ放水訓練 煙中体験 心肺蘇生訓練 炊き出し訓練 避難経路の把握など
実施者	自主防災組織などの住民組織 松原市・消防本部など行政機関
対象者	地域コミュニティ関係者

セーフコミュニティを始めてからの改善点

課題 ： 参加者の固定化と地域ぐるみの訓練が必要



- ・地域防災ネットワークプロジェクト協議会を立ち上げ、小学校の避難訓練と組み合わせた取り組みを開始
- ・安否確認の効率を向上させるため、タオル運動・両隣声かけ運動を訓練内容に盛り込む

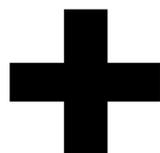
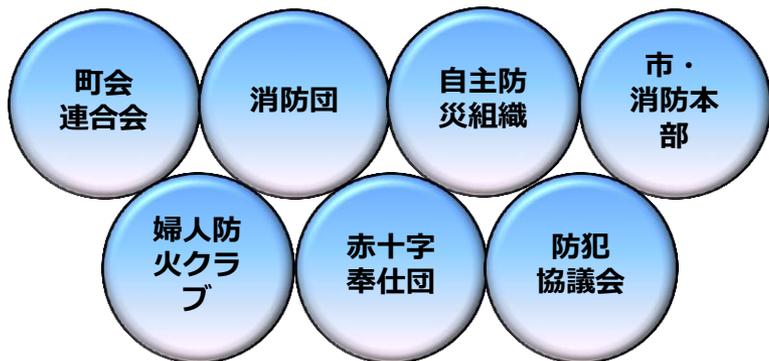


タオル運動実施例

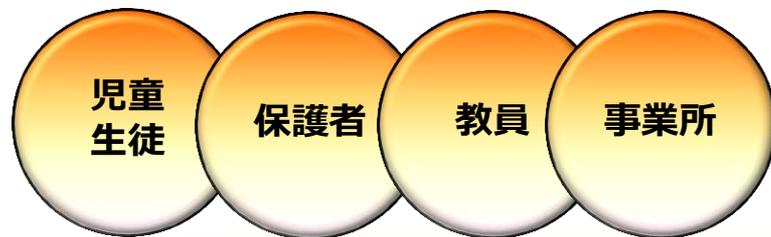


地域防災ネットワークプロジェクト協議会による 訓練の開始

これまでの活動団体



新たな参加者



2012年度	松原東小学校・三宅小学校・天美北小学校	2,132人参加
2013年度	松原小学校・恵我小学校・布忍小学校	3,336人参加

* 2012年度 地域の防災訓練 14回 1,976人参加



訓練の様子

未来の地域防災の担い手も育成

年に3校ずつ実施し、新たな訓練内容も検討



全市的な運動の展開

【タオル運動】

大規模災害発生時、自宅に救助を要する者がいない場合、玄関のドアや門扉などにタオルをくくりつけ、安否確認の必要がないことを意思表示し、安否確認作業の効率を上げる運動。

【両隣声かけ運動】

大規模災害発生時、避難する際に、自宅の両隣に対して、安否確認を行う運動。救助を要する者がいないことがわかれば、左記のようにタオルを掲げて、迅速な安否確認作業につなげる。



広報や訓練の中で紹介

《いざという時の行動の流れ》

- ①まずは、自身の身の安全を確保
- ②家族が無事であれば、タオルをくくりつける
- ③両隣に声をかけて、安否を確認
- ④無事ならタオルをくくりつける、救助が必要なら、地域に応援を求める
- ⑤速やかに避難する

取組② 家具転倒防止等対策の普及

実施内容	市が行っている防災についての出前講座の際に、家具の転倒防止対策の重要性、固定方法を伝える
目的	家具の転倒防止対策を実施することの重要性を認識させ、地震発生の際に、家具の転倒による被害を減少させる
実施者	松原市
対象者	住民組織・小中学校



町会が主体となって実施する勉強会の様子

セーフコミュニティを始めてからの改善点

課題： 実施主体が行政のみ



・国が作成した啓発DVDを複製し、対策委員会に参加する団体に配布。それぞれが主体となった勉強会を実施。



配布しているDVD

取組③ 地域の見守り活動

実施内容	地域内で高齢者や障害者・子育て中の親子など見守りが必要な者を把握 現在は一部地域での実施に留まっているのが現状
目的	対象者を把握し災害時の助け合いに備える
実施者	町会連合会や地区福祉委員などの住民組織が連携
対象者	自力避難が困難な高齢者等

セーフコミュニティを始めてからの改善点

課題：対象者の絞り込みが困難であることと個人情報の問題から実施する地域が少ない現状



- ・まずは現状把握から始めるため、ケアマネージャに自力避難困難者の把握と両隣声かけ運動への協力を依頼
- ・現在実施中の町会を参考にして地域の見守り体制構築マニュアルを作成し地域の活動を支援



阿保第三町会の取り組みを参考に作成したマニュアル

取組④ 住宅用火災警報器の設置普及・維持管理の啓発

実施内容	防火イベントや広報誌等で、住宅用火災警報器の設置普及・維持管理の啓発を行う 独居高齢者・障害者世帯への購入設置助成
目的	火災警報器設置と維持管理の重要性を認識させ、火災による逃げ遅れ被害を減少させる
実施者	松原市消防団 婦人防火クラブ 松原市消防本部 松原市
対象者	イベント参加者・未設置者

セーフコミュニティを始めてからの改善点

課題： 購入設置助成も含めた情報発信をできるだけ多くの人に行う



- ・ 広報まつばらに啓発リーフレットを添付し配布
- ・ 高齢者や障害者への購入設置助成について、広く周知していく



町会と赤十字奉仕団により作成配布された啓発リーフレット



取組の評価指標 ①

凡例 ①目標 ②確認方法 ③確認の対象

取組	短期的成果指標	中期的成果指標	長期的成果指標
地域の 防災訓練	<p>(指標名) 地震災害発生時の初動対応認知度</p> <p>①災害発生時の初動対応認知度の向上 ②訓練参加前後の認知度調査（1年ごと） ③市民</p>	<p>(指標名) 地震災害発生時の初動対応実施割合</p> <p>①災害発生時の初動対応実施割合の向上 ②市民アンケート調査（3年ごと） ③市民</p>	<p>(指標名) 災害への不安感</p> <p>①災害への不安感を抱いている世帯割合の減少 ②市民アンケート調査（3年ごと） ③市民</p>
家具転倒 防止等対策の普及	<p>(指標名) 家具転倒等対策の必要性認知度</p> <p>①家具転倒等対策の必要性認知度の向上 ②出前講座等参加者への認識調査（1年ごと） ③市民</p>	<p>(指標名) 家具転倒等対策の実施者割合</p> <p>①家具転倒等対策の実施者割合の向上 ②市民アンケート調査（3年ごと） ③市民</p>	<p>(指標名) 地震災害による死傷者数</p> <p>①地震災害による死傷者数を抑える ②災害時の報告・統計 ③死傷した市民</p>



取組の評価指標 ②

凡例 ①目標 ②確認方法 ③確認の対象

取組	短・中期的成果指標	長期的成果指標
地域の見 守り活動	<p>(指標名) 安否確認登録制度の登録者数</p> <p>①安否確認登録者数の増加 ②登録者数集計（1年ごと） ③市民。高齢者等災害弱者</p>	<p>(指標名) 地震災害による高齢者等 災害弱者の逃げ遅れ死傷 者数</p> <p>①地震災害による高齢者 等災害弱者の逃げ遅れ死 傷者数を抑える ②災害時の報告・統計 ③死傷した高齢者等災害 弱者</p>
住宅用火災 警報器の設 置・維持管 理の普及	<p>(指標名) 住宅用火災警報器の設置率・維持管理実施率</p> <p>①住宅用火災警報器の設置率・維持管理実施率の向 上 ②イベント参加者へのアンケート調査（1年ごと） ③市民・高齢者・障害者</p>	<p>(指標名) 平時・災害発生時の火災 による死傷者数</p> <p>①平時・災害発生時の火 災による死傷者数の減少 ②災害時の報告・統計 ③死傷した市民・高齢者 等災害弱者</p>



事前審査における趙審査員からの助言

《 助 言 》

- ・ 医療機関の災害対策は、病院内外への対応が必要
- ・ 医療機関として、セーフコミュニティにどのように関わっていくのか考えてもらいたい

大規模災害への対応はどうなっている？

- 災害時に医療拠点となる3医療機関を調査
 - ・ 2病院がマニュアルを作成し、それに基づく病院内外への対応訓練を実施
 - ・ 1病院が未策定であったが、災害時の安全対策委員会より策定を依頼 ⇒ 承諾を得る

松原徳洲会病院
災害対応標準マニュアル

平成24年3月
災害対策委員会

病院で作成している
災害対応マニュアル



趙審査員の助言を受けて①

【2013年3月9日】

医療機関相互の連携による災害対応訓練を実施

⇒ 災害時の安全対策委員会も参加

- ・ 松原市医師会と災害時の医療拠点となる3病院が連携
- ・ 年に1回、連携した訓練を3病院輪番制で実施





趙審査員の助言を受けて②

《災害時の医療救護活動に関する協定書を締結》



【2013年4月15日】

松原市医師会
松原市歯科医師会
松原市薬剤師会

医療救護活動を実施



【2013年4月19日】

松原徳洲会病院
阪南中央病院
明治橋病院

傷病者の受け入れを実施



現時点での到達点

地域の防災訓練

- ・ 小学校の避難訓練と地域の防災訓練を組み合わせた訓練を開始
- ・ タオル運動、両隣声かけ運動を全市的に展開。訓練内容に組み込む
- ・ 医療機関が実施する災害対応訓練に参加

家具転倒防止等対策

- ・ 啓発DVDを配布し、町会や老人クラブが主体となった啓発勉強会を実施

地域の見守り活動

- ・ ケアマネジャーに、自力避難困難者の把握と両隣声かけ運動への協力を依頼
- ・ 町会を主体とした見守り体制構築マニュアルを作成し、地域の見守り活動を支援

住宅用火災警報器の設置普及・維持管理の周知

- ・ 広報まつばらに、リーフレットを添付し、市民に広く周知



気づきと今後の方向性

セーフコミュニティ活動を始めての気づき

- ・データをみることで、改めて大震災を他人事ではないと認識
- ・多くの団体が連携することで1つの取組の効果が大きくなることを実感
- ・それぞれの団体が活動内容を共有することで、協力し合う雰囲気醸成

今後の課題と方向性

地震災害における死傷

- ・全市的にタオル運動と、両隣声かけ運動を広めていくことで、取り組みが進みにくい逃げ遅れによる死傷対策をカバーしていく
- ・医療機関が行う災害対応訓練に計画的に参加していく
- ・家具の転倒防止対策について自力設置が困難な者への対応を検討

高齢者等災害弱者の逃げ遅れによる死傷

- ・見守り体制を構築する団体を徐々に増やし、地域住民で情報共有できる体制づくりを進めていく
- ・住宅用火災警報器について高齢者と障害者への設置購入助成を広く周知していく
- ・町会や消防本部など関係団体連携のもとアンケート調査を行い、住宅用火災警報器・家具の転倒防止対策について、現状把握を進めていく



ご清聴ありがとうございました

絆でつくる みんなのセーフコミュニティ まつばら